

令和6年度 学校評価

学校教育目標	キーワード	努 力 点	評 価 項 目	集 計 結 果 (%)					今年度の課題	改 善 策	評議員会・評価委員会の御意見
				A	B	C	D	E			
〔知・徳・体〕 【自主・尊重・協働】 （体）元氣・協働 （徳）礼節・夢の力 （徳）礼節・尊重	（体） 元氣・協働	(1) 健康 教育の 充実	① 健康で安全な生活態度の育成が図られているか。 ② 心の健康を重視し、不登校生徒減少への取り組みの充実が図られているか。 ③ 基本的生活習慣の確立が図られているか	57	43	0	0	0	・ 基本的生活習慣の確立（個人により差が大きい）。 ・ 「体力向上」を求める前に「運動に親しむ」段階が必要。 ・ 新体力テストの結果や分析結果の共有。 ・ 取り組みの継続見直し	・ 今後も継続して生徒の安全意識や自己管理能力の育成を図る。 ・ ふらっとルーム（校内教育支援センター）の状況に応じた活用と関係生徒、家庭への周知していく・ ・ 体力向上の前に運動に親しむ段階、機会を大切にする。 ①親しむ「運動に親しむ生徒の育成」 →昼休みは外に出て仲間と体を動かすことの奨励。 ②行動「運動を日常的に行う生徒の育成」 →運動部活動、地域運動クラブ等への加入の奨励。 ③継続的・自主的・個人的取組 「目標を持って運動できる生徒の育成」 →新体力テストや体育的な学校行事に積極的に関わる姿勢の涵養。	・ 心の健康を保つ取り組みが重要。ふらっとルーム（校内教育支援センター）がいざという時に抵抗なく利用できるよう、平時の活用、周知が大切。 ・ ふらっとルームについては、小学校児童も利用できていてよい。担当の先生と利用者の学校（担任や管理職）との情報交換や方向性のすり合わせが大切 ・ 町でも、多様な人々の居場所づくりを検討している。 ・ 体力向上の課題を学校で解決を図るためには、「運動に親しむ」に重点を置くことは良いことだと思う。 ・ ①親しむ②行動する③継続的・自主的・個人的取組という改善策はとてもよい。成人後、生涯に渡って運動を続けていく後押しになる（生涯スポーツ） ・ 地域運動クラブ活動等は町で受け皿を準備することも必要。社会体育の充実が求められる。（ユリピー等） ・ 学校行事等で体力づくりになるものを取り入れる方向を考えてもよいのではないか。 ・ 体力向上について、大学教授等、専門家や外部の力を借りる方法もある。 ・ 小学校も体力向上は課題であり、外遊びを奨励しているので、中学校と一緒に取組んでいけるのはよい。 ・ 休み時間や昼休みに積極的に外に出て遊ぶことは必要。少しの時間だが、毎日の積み重ねは大きい。 ・ 学校の安心・安全は、いじめを含めた精神的安定も大切。定期点検の具体策の検討も必要。
		(2) 体力 向上の 推進	① 体育の授業における、個に応じた運動量は確保されていたか。 ② 新体力テストの分析と重点指導がされているか。 ③ 教科と部活動、部活動同士の連携の強化が図られているか。	57	29	0	0	14			
				36	36	14	0	14			
				21	57	14	0	7			
		(3) 安全・ 安心な 学校 づくり の推進	① 教職員の危機管理意識の日常化が図られているか。 ② 生徒の安全意識を高める日常指導が行われているか。 ③ 定期点検・日常点検の強化が図られているか。	64	29	7	0	0			
				36	64	0	0	0			
				71	29	0	0	0			
	（徳） 礼節・尊重	(1) 豊かな 人間関係 を築く 指導の 充実	① 組織的な生徒指導体制の確立が図られているか。 ② 生徒理解に努め、教師と生徒の心のふれあいが持てる生徒指導の実践が図られているか。 ③ 集団の一員として協力的に活動させることで、自らを律する態度や自己有用感の育成を図っているか。	71	21	7	0	0	・ 規範意識やルールの徹底等、一部課題が見られることもあった。 ・ 全領域での道徳教育の明確化と指導の充実の意識化。	・ 目標等、大きく変えず、深化させていく。 ・ 生徒指導面でも学年生徒等により授業でのTTは有効であるので、継続していく。 ・ 教育相談、保護者面談の回数等は、維持していけるよう計画する。 ・ 「全領域」の捉え方（「学校の教育活動全体」あらゆる活動での道徳との関連）を再確認し、「道徳の時間」（授業）はその要になることを共通理解する。 ・ 道徳の授業の充実について、授業時間や会議等の時間等を工夫し、主任や副担任も道徳の授業に参加できる方法も検討する。 ・ 授業研究の持ち方等も工夫する。	・ 不登校、問題行動の未然防止につながる組織的対応が重要。評価結果から先生方の意識が高いのは良い。 ・ 生徒の自治的な活動が見られる学級経営、生徒会活動が大切。特別活動を見直し、生徒の主体性を育てることが大切。 ・ 立志式やマィチャレンジ、総合の発表会など、毎回生徒さんが、しっかりと取組んでいる印象を受けている。 ・ 価値理解を教師がどれだけ行っているかが授業改善につながる。道徳の授業を中心に全ての教育活動につなげる。 ・ 教師と保護者の関係がよいと教育にも理解がしてもらえる。 ・ 道徳の「別業」等、掲示活用する等して、常に意識できるようにしてはどうか。 ・ 道徳の授業について、全ての教科がそうであるが、研究授業が一番と考える。特に学校規模が小さく、教科部会で研究授業が難しい中学校においては、全クラスで全教員が共通で行っている「道徳」の研究授業は全ての教員が授業の提案ができ、話し合いに（教科の壁を越えて）参加できるので、大変有効と思っている。時には、外部から指導者を要請するのもよい。 ・ 生徒会活動の活性化は生徒自身の規範意識やルール作りに効果的であり、生徒会の自主運営にもつながっていると思う。 ・ 校内合唱コンクールなど、クラスの団結力を高める行事があり、居心地の良い学級づくりにつながっていると思うので継続して行って欲しい。
				64	36	0	0	0			
				43	57	0	0	0			
		(2) 居心地の 良さを 感じ られる 学級経営	① 良好な人間関係を築くための学級活動・生徒会活動の活性化が図られているか。 ② 規範意識の高揚とルールの徹底がなされているか。 ③ 教師と生徒、生徒と生徒、教師と保護者など、様々な関係の中で、良好な人間関係の構築が図られているか。	36	64	0	0	0			
				14	79	0	7	0			
				29	71	0	0	0			
		(3) 道徳 教育・ 人権 教育の 充実	① 全領域での道徳教育の明確化と指導の充実が図られているか。 ② あいさつ運動、生徒会活動、ボランティア活動等を通した人権教育の充実が図られているか。 ③ 学校行事等を通した道徳的な場の設定がなされているか。	21	64	14	0	0			
				64	36	0	0	0			
				50	36	7	7	0			

学校教育目標	キーワード	努 力 点	評 価 項 目	集 計 結 果 （％）					今年度の課題	改 善 策	評議員会・評価委員会の御意見
				A	B	C	D	E			
<div>郷土を愛し、自立した活力ある社会人の基盤づくり【元気・礼節・夢の力】</div> <div>知・徳・体の調和がとれ、自主的に行動し、お互いを尊重し、協働することができ、健康でたくましく、心豊かな生徒を育てる</div> <div>【自主・尊重・協働】</div>	（知）夢の力・自主	(1) 学力の向上を図る学業指導の充実	① 基礎的・基本的内容の確実な定着とICT 機器を活用したわかる授業の展開がなされているか。	43	43	7	7	0	・ICT の活用や協働学習、グループ活動は意識されているが、基礎基本の確実な定着に課題がある、 ・生徒が主体に取り組む授業づくりの意識化。 ・キャリアパスポートの「効果的な」活用 に課題がある。 ・個別の支援計画のさらなる活用。 ・ICT の活用は個人（教員、生徒）により差がある。	・協働学習をより充実し、生徒自身が目標を設定して課題を解決していく授業づくりを目指す。 ・ティームティーチングの効果的活用 ・学活等で過去の行事を振り返りながら今年度の目標を立てる（各行事前等） ・進路学習も学年日より等で情報提供されているものを効果的に活用する。 ・T・T の効果的活用、学習形態の再検討。 ・個別の支援計画を適宜確認し、見直す機会を設ける。 ・効果的な ICT 活用等の共有、工夫を取り入れ、個に応じた知識の定着をねらう。	・習熟度別学習を工夫して学力の定着を図る方法もある。 ・協働学習での学び合い、高め合いが、個々の学びの深化、課題解決につながると考える。そうすると、協働学習の充実は非常に重要で、形式だけにとらわれることなく、「話し合いの中身を深める指導」を考えていくことが大切。 ・学力向上は、資質能力の育成に目が向かなければ授業改善につながらないと思う。協働学習の前に学習内容の理解を重視する必要があるのではないか。 ・ICT は「使えるようになっているか」「どう使うか」「どう効果を上げる」に視点を持つ必要がある。 ・校内合唱コンクール、総合の発表会を、是非小学校 6 年生に見せて欲しい。（オンライン配信や後日のビデオ配信でも可）小中連携としていかせる。 ・キャリア教育の計画の中に、各学年でのキャリアパスポートの活用場面を明示することで、年間を通して効果的に活用できるのではないか。 ・T・T だけでなく、少人数指導なども行うとよいのではないか。 ・3 小学校の ICT 活用がバラバラなので、中学校での指導が大変かと思う。今後統合も見据えて、小学校の ICT 活用能力を統一し、必ず実践するなどしていければよいと思う。 ・ICT については、小学校でも積極的に取り組むよう努力している。 ・学校規模が小さくなると、免外の教員が担当する授業等もあり、他地区では多くの教員がいる大きな学校を保護者が選ぶような話も聞く。特認校で専門性のある教員を集めるなど、何か特色を出すという方法もある。
		(2) 自分の生き方を考える教育の充実	② 個別最適な学びを推進し、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりの実践が図られているか。	29	57	14	0	0			
			③ 協働学習の日常化により、言語力の向上を図った学びに向かう集団づくりの実践が図られているか。	36	43	21	0	0			
			① SDGs の観点から迫る課題可決能力の育成が図られているか。	43	43	7	7	0			
		(3) 個に応じた指導方法の工夫・改善	② キャリアパスポートの効果的な活用がなされているか。	21	29	36	7	7			
			③ 系統的な進路学習、総合的な学習の時間の充実が図られているか。	43	57	0	0	0			
			① 学習形態（少人数・習熟度別）の工夫をすることで基礎学力の定着を図られているか。	36	43	0	14	7			
			② 個別の支援計画の効果的な活用による支援や手立ての明確化が図られているか	29	57	14	0	0			
			③ ICT 機器の効果的な活用による個に応じた指導の充実が図られているか	29	43	29	0	0			
		郷土を愛す	① 家庭と連携した生活・学習習慣の定着が図られているか	21	36	43	0	0	・家庭と連携した生活習慣・学習習慣の定着は課題。 ・ブックトーク浴衣の着付け、間伐教室等、多くの方に協力いただいた。 ・ブックトーク浴衣の着付け、間伐教室等、多くの方に協力いただいた。	・継続的に HP、学校日より、学年日より、学級日より等で、家庭や生徒に情報を発信し続ける。 ・様々な機会ですぐ生徒の自己管理能力の育成、家庭とのさらなる連携を工夫する。 ・小学校の取組とも連携を図る。 ・より多くの人にかかわって欲しい活動や専門的な活動については、さらに地域ボランティアの活用を検討する。（ミシン、農園活動、琴等）	・子供たちの家庭環境は保護者の経済力、意識等も含め様々で、学習（学力向上）に家庭の協力を得ることは意外と難しいと感じる。 子供たちの学習意欲を高める、やる気にどう火をつけるかということが大きな究極的な課題だと現職の時から考えていたことで、一番難しいところ。当時も残念ながらい解決策を見出せないままだった。 ・学習習慣については小学校での取り組みが大きく影響していると思う。家庭との連携を図りながら、小学校でも定着するよう努力していきたいと思う。 ・学習指導主任会等で小学校から中学校まで見通した家庭学習のあり方を提案していけるようにしていければと思う。 ・HP、学校日より、学年日より、学級日より等で情報を発信し。地道に理解を求めていくことが大切と思う。 ・町の生涯学習課との連携を効果的に行うとよいのではないか。 ・安全管理という視点からのボランティアもお願いしてはどうか。調理実習や裁縫、木工など教員一人では目配りが難しい活動は、技術を教えるのではなくても可能だと思う。
			② 地域ボランティア活動を中心とした人材活用の推進が図られているか。	36	57	7	0	0			

